

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0110317328		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホーム きよた		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10番25号 (電話) 011-882-4188		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年3月5日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム きよた」は、医療法人が長年の地域医療を経て敷地内に開設したホームである。地域に医療と介護の良質なサービスを総合的に提供するため、法人の代表とホーム長は職員の育成に熱心に取り組んでいる。法人内の「勉強会」「ホーム勉強会」、外部研修などに職員は参加し、常に学ぶ姿勢を高めている。2階建の住宅を改造した1ユニットで暮らしている利用者は、地域の老人会でカラオケを楽しみ、小学校の運動会や作品を展示している地域の文化祭などに出かけて地域住民と交流している。利用者は毎月の多彩な行事の他に敷地内にある法人のグループホームやデイケアサービスに出かけ、イベントやボランティアの催しを一緒に楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）</p> <p>住宅の改造でハード面に課題も残るが、利用者の暮らしを良質なサービスの提供で支えている。外部評価の取り組みは改善シートに記録し、運営推進会議では双方向的な話し合いを進めている。現在、看取りについてのホーム方針を検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>自己評価は職員が項目ごとに分担し、記載した内容を「ホーム会議」で話し合い、ホーム長がまとめた。項目によっては受け止め方の違いもあり、現状に照らしての活発な意見交換になった。今後、自己評価、外部評価の結果を改善シートに記載し話し合う予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）</p> <p>数ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。行事や事故報告をする中で、安全に配慮しながらもホームでの自由な暮らしを支える意義を双方で話し合い、認知症の理解を得るように努めている。会議の中で「認知症サポーター養成講座」の開催と結果を報告をしている。住民の関心が高いので、今後も養成講座を開催をしたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>家族の来訪時に、管理者や担当職員は本人の状況や介護計画を話し合いコミュニケーションを密にしている。苦情や意見などは家族の言いにくい事と受け止め、話しやすい雰囲気を作り、信頼関係を築く中で積極的に聞くように努めている。職員の異動、退職などは運営推進会議の中で報告をしているが、担当制をとっているの家族に配慮し早めに報告する工夫も考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>老人会定例のカラオケや踊りを楽しみ、地域の文化祭には作品を展示している。小学校の運動会に出かけ、また保育園児との昼食会を今年は予定しており、子供と交流する機会を増やしたいと考えている。利用者は職員と一緒にホーム周辺や近所のゴミを拾い、地域との交流に努めている。</p>

【情報提供票より】（平成21年 2月 4日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 9月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1.2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 20,000円 暖房費(11~3月): 6,000円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(53,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要(2月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.1 歳	最低 71 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌しらかば台病院 玄番歯科クリニック
---------	---------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域へ医療と介護を総合的に提供する母体医療法人の方針に連動し、「安心と尊厳のある生活を実践し、地域社会の一員としての生活を支える」という内容の、開設当初に作った理念に沿って日々のケアに携わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関内と2階のホールに掲示し、「ホーム会議」や申し送り時に確認している。利用者の尊厳について、具体的な介護場面でのプライバシーに反することを取り上げ、それらを職員間で話し合い理解を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会定例のカラオケや踊りを楽しみ、地域の文化祭には作品を展示している。小学校の運動会に出かけ、また保育園児との昼食会を今年は予定しており、子供と交流する機会を増やしたいと考えている。利用者は職員と一緒にホームの周辺や近所のゴミを拾い、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が項目ごとに分担し、記載した内容を「ホーム会議」で話し合い、ホーム長がまとめた。項目によっては受け止め方の違いもあり、現状に照らしての活発な意見交換になった。今後、自己評価、外部評価の結果を改善シートに記載し話し合う予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	数ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。行事や事故報告をする中で、玄関の鍵を掛けない、抑制をしないケアへの質問に、安全に配慮しながらもホームでの自由な暮らしを支える意義を説明し、認知症の理解を得るように努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市とは書類や制度上の事務的なことで連絡を取り合っている。また、年に3回実施している札幌市管理者会議に参加し連絡事項や情報も得ている。数ヶ月に1度は清田区に出かけ、おむつ支給や介護認定更新などを相談し担当者と話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	個人への「きよメール」便りに、写真と担当職員のメッセージを載せ、ホーム長の手紙も添えて毎月送っている。ホームページには、毎月の行事を中心に、全体的な情報を発信している。預かり金は月ごとに締め、来訪をお願いし、日々の様子と一緒に報告している。	○	職員の異動、退職などは運営推進会議の中で報告をされているが、職員が担当制をとっていることもあり、家族に配慮し早めに報告するなどの工夫に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、管理者や担当職員は本人の状況や介護計画を話し合いコミュニケーションを密にしている。苦情や意見などは家族の言いずらい事と受け止め、そのためにも話しやすい雰囲気を作り、信頼関係を築く中で積極的に聞くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代はサービスの質の低下につながると運営者は認識しており、職員が定着できるよう配慮している。離職の時には、理解の出来る利用者には伝え、職員間で支えている。担当の職員がいなくなる、という利用者の思いや不安などについて、利用者の視点から話し合うことも考えている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は精力的に研修の機会を作り職員の育成に取り組んでいる。職員は毎週ある法人の「勉強会」に交代で参加し、ホーム内でも毎月の「勉強会」で学んでいる。介護のテーマについてホーム長と職員がブログで意見を交換するなど、学ぶ姿勢を常に高めている。業務に必要な外部研修の費用は法人が負担し、参加した職員は「ホーム会議」で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の「グループホーム連絡会」では、利用者を主体にし職員がサポートする「グループホーム交流会」が毎年行われている。昨年は当ホームが準備の担当になり区の同業者が13ヶ所参加し、盛大な催しの中で他事業所との交流が得られた。また身近なところで、今年は法人内の事業所間で相互の実習を予定している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人・家族の見学を勧め、本人が来られない時は訪問し、顔馴染みになっている。入居後は情報をもとに、自分だったらどうして欲しいかを、常に職員は考え、その人に沿った対応で安心して過ごせるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買物から調理まで行っている利用者もおり、職員は月に数回の「食事作り」を側面から支え継続している。また団子づくり、漬物、味付けなど得意なことを利用者に教わり一緒に作っている。利用者の気遣いや励ましの言葉で支え合っていることを実感することがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人的な要望に極力叶えるように対応し、即、応えられない時は日時を約束し了解を得ている。家族・本人からの情報で食事作りや生け花など、可能性のあるものを試し実現している。表現できない利用者には共感的理解のコミュニケーション技法などを用い思いを探っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を把握し担当職員が中心となって大まかな介護計画を作成、その後カンファレンスで全職員の意見を反映した原案を作成している。原案は、介護支援専門員の指導を受け介護計画としてまとめ、管理者や担当者が家族に説明、話し合いを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月2回のケース検討会議で一人ひとりの利用者の心身の状況の変化について検討している。本人との会話や家族の来訪時に情報を収集し、それらを基に3ヶ月ごとに定期的見直しを行っている。入退院時には、その都度現状に即した介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして点滴などの医療処置を事業所内で実施している。また、通院や美容室、初詣などの外出支援を行っている。地域の会館を利用し「認知症サポーター養成講座」を開催、地域の人々の多数の参加を得ている。今後も交流を図っていく予定である。	○	居宅介護支援事業所のケアマネジャーと協働して地域の認知症相談窓口として活動していきたいとのことなので、その取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用契約時にかかりつけ医の継続受診について話し合っている。認知症の専門医の受診は、入居後も継続しており、かかりつけ医と協力医療機関、事業所との連携が図られ適切な医療を受けることができる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明しているが具体的な話し合いには至っていない。開設以来、看取りは無く、重度化した場合は入院対応をしている。	○	事業所としての方針について検討し、本人、家族、医療機関と方針を共有することができるよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「人生の先輩である」という考え方で接するように指導している。幼児に話しかけるような言葉や命令口調、あるいは「してあげる」という言葉は本人の誇りを損なうと考え、注意をしている。記録類は事務室の鍵付きの書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、起床の時間帯に合わせて個別に摂っており、昼食、夕食は同じ時間帯としている。体操やレクリエーションなどは、その日の体調や気分に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	冷蔵庫にある食材を使って献立を考え調理している。外食時の様子や日々のケアから利用者の嗜好を把握し献立に反映させている。米を研ぐ、野菜を切る、盛り付けをする、食器を洗うなど、一人ひとりの力に応じた役割を持っている。居室で夫婦二人の食事を楽しむこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後から入浴の時間を設け、最低でも一人が週に2回はゆっくりと入浴をしている。女性の利用者には同性介助をしており、拒否がある場合は、適切な言葉かけをすることで入浴を楽しめる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	夏季はゴミ拾いや庭の水遣り、草むしり、冬季はタオルたたみなどの役割をもって生活をしている。隣接している法人の別事業所からカラオケの機械を借りて歌を楽しんだり、頻繁に外出行事を取り入れ気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や体調に応じて週に3~4回は散歩に出かけ、秋には、近くの公園で落ち葉やどんぐり拾いを楽しんでいる。玄関の横にベンチを設置し、グラウンドで遊ぶ児童の姿を眺めながら外気浴や日光浴をしている。冬季は大型商業施設に出かけ閉じこもらない工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は施錠せず、チャイムで出入りを確認している。利用者は庭木の水遣りをするなどの用事で自由に出入りをしている。外出する場合は一緒に出かけ見守りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、自主訓練と消防署の指導を受け避難訓練をしている。連絡網は隣接している法人の別事業所や町内会長、院長宅も含まれ協力を得られる体制を整えている。職員が利用者役を担当し、夜間を想定した避難訓練を行い避難場所を確認している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の別事業所が委託している管理栄養士に年1回、献立の専門的な栄養管理を受けている。疾病に応じて食べる量や栄養バランス、水分量の具体的な指導を受け文書で確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の住宅を改造し1階に夫婦部屋を含む2室、2階に7室がある。居間の中央に食卓テーブルを置き、その周囲にソファを並べて利用者がゆったりと過ごしている。手作りの紙細工のお雛様や日めくり、絵画などを飾り一般家庭と同じしつらえの共用の空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子、ソファなどを持ち込んで居室で寛ぐことができるよう工夫している。仏壇や使い慣れた鏡台、筆筒、家族の写真を飾るなど家族と協力して本人らしい居室づくりを支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。